

が牽引されて胃液が漏れ、胃酸による皮膚刺激による疼痛も重なり、悪循環を呈していました。その後、逆流予防のために半固形化栄養剤を注入し、胃食道逆流の予防を図り、体幹・四肢の緊張を緩和するポジショニング（図3）、ボトックス療法などにより、胃瘻周囲の炎症と胃瘻口の拡大が改善しました。



図3 事例1：緊張緩和のポジショニング  
腹部ではなく恥骨部にクッションを当てる

事例2

肺炎を繰り返し、退院時にWOCナースから頭部の褥瘡の洗浄、白色ワセリン処置の指導を受け、訪問を開始しました。ガーゼ使用を中止し、モイスキンシート（白十字）を枕に敷きました。胃瘻部のびらん、胃食道逆流の緩和のために

半固形化栄養剤の注入を検討しましたが消化が悪く、医師に相談して胃と十二指腸の二孔式のチューブにて十二指腸からの経腸栄養に変更しました。胃瘻部の保護（図4）、痛みによる苦痛の緩和、呼吸リハビリによる肺炎の予防、浣腸などによる蠕動運動の改善を図りました。また頭の重さと頸部の重さをとるポジショニングにより緊張の緩和を図ることで、頭部の重さと緊張による頭のずれる動きが減少し、消化器症状の回復とともに褥瘡も完治しました（図5）。頭部の褥瘡や胃瘻部の状態については、写真を撮り、メールで報告し、連携しました。



図4 事例2：胃瘻部の保護



図5 事例2：変化の過程

事例3

座位によるずれに伴う尾骨部褥瘡とアセスメントし、生活情報をWOCナースに提供したところ、ドレッシング材が処方されましたが、ドレッシング材に皺・ずれができました。下着側に緩衝テープを貼り、車椅子にテーブルをつけ上半身

の体重を分散し（図6）、理学療法士にシーティングを依頼しました。介護士、看護師、WOCナースとの統一した関わりによって褥瘡は完治しました。

- A 車椅子にテーブルを作成し上半身の重さを大腿部で受ける
- B ドレッシング材がよれてしまう
- C ドレッシング材を使用せず、創部に当たる部位の下着に摩擦緩衝のテープを貼る



図6 事例3：尾骨部褥瘡への対策

WOCナースとのこれまでの連携

訪問看護ステーション連絡協議会と市内WOCナースと連携して、ヘルパーを対象とする「ストーマ研修会」を協働で企画し（図7）、研修後にWOCナースから修了書が渡されました。このように協働し、顔の見えるネットワークの構築が図られています。

ストーマケアを学んで退院しても、生活スタイルの変化や食事などによる体形の変化により、パウチを変えていく必要があります（パウチ選びは靴選びと同じ）。ピッタリと合ってもまた変更を余儀なくされることは多く、速やかな対応が必要です。就労など生活のストレスなどについて病院担



図7 ストーマ研修会